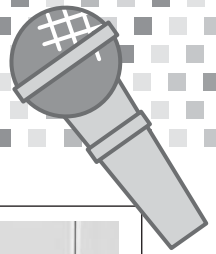


# 新規採用教員へのインタビュー



井手野 克俊 いでの かつし

県立誕生寺支援学校教諭  
(令和2年度採用)

自己紹介

昨年4月に特別支援学校教諭として採用され、知的障害部門中学部3年生の担任と、全学年合同での体育の授業を担当しています。目の回るように忙しい毎日ですが、生徒の学習面・生活面での自立支援をする中で、驚きや発見に満ちた充実した毎日を送っています。趣味のバスケットボールは小学校から今まで続けていて、心身のリフレッシュができるとても大切な時間です。

## Q 教員を志した理由は何ですか？

幼いころから学校が大好きで、何歳になっても学校にいられて、たくさんの人とかかわれる仕事がしたいと思い、教員を志望していました。趣味のバスケットボールの指導がたくて、大学では高校の体育の免許を取得しました。講師として特別支援学校で勤務する中で、一人一人の生徒と深くかわり、困難さがありながらもひたむきに頑張る生徒を応援し、その成長を目にして保護者の方と一緒に喜びを分かち合えたときにとても感動し、特別支援学校の教員になろうと決心しました。それから通信制の大学で追加の単位を取得し、昨年4月に念願の教諭になることができました。

## Q 教員としてのやりがいや苦労について、教えてください。

これまでの教員生活の中で、自信がついたことで何事に対しても積極的になり、目を見張る成長を遂げていく生徒を何人も目にしてきました。障害のあるなしにかかわらず、子どもの成長にとって自信をもつことがとても大切だと実感しています。自分にできる精一杯の支援をして、生徒の中に自信の種がかすかに見えたとき、とても大きなやりがいと感動を覚えます。

苦労ではないのですが、仕事のことで感じているのは、書面上は同じような困難さがあるように見える生徒でも、その実態は一人一人違っていて、「その子にとって最適な支援」を見つけてあげることがとても難しいということ。自分なりにできるだけの準備をして支援に当たっても、後になって「本当にあれでよかったのだろうか」と不安になることもよくあります。どんなに小さな変化も見逃さないよう細心の注意を払って生徒の様子を観察して、自

## Q 現在、仕事の中で気をつけていることはありますか？

自分が「教員チーム」の一員であることを忘れないこと、そして自分の力を過信しないことです。私が所属する学年団は、年齢構成もさまざま、とても経験豊富な先生もいらつしやいます。そんな先生方をしっかり頼りながら、学年団の教員がチームとしてそれぞれの持ち味を発揮しながら生徒の指導に当たることがとても大切だと思っています。

また、自分の力を過信しないように常に意識しています。適切な指導が生徒の自立支援に有効なのはもちろんですが、誤った指導をすると取り返しのつかないことになり、生徒のためを思うとついつい前のめりになります。落ち着いて冷静に考えるよう心がけています。

## Q 目指す教員像や理想の先生について教えてください。

とにかく生徒や保護者に信頼される教員になりたいです。生徒が

本当に困ってどうしようもなくなってしまうときに、「助けて」と言ってもらえる教員です。もしそこでSOSが出せなかったら、生徒がふさぎ込んだり、不適切な行動をとったりしてしまう可能性もあるからです。

信頼される力には「声かけ」だと思っています。適切なタイミングでの適切な声かけは大切ですが、同じくらい「あえて声をかけない」ことも大切だと思っています。声かけをしてもしなくても、「いつも見守っているよ」というメッセージは伝え続けていきたいです。

## Q 休みの日は何をして過ごしていますか？

趣味のバスケットボールをプレーしているときは、何もかも忘れて熱中できます。また、障害のある方のバスケットボールチームで指導させていただくチャンスもあり、自分自身も勉強させていただくことが多くあります。

最近はコロナ禍でできていないのですが、車とドライブが大好きで、どこまでも車で旅行するのが好きです。最近のステイホームでは、お酒をたしんだり、ゲームを楽しんだりしてリフレッシュしています。